

1. 内外政

▼大統領動向

- ・2日、ポロシェンコ大統領は、高等反汚職裁判所法採択に伴う裁判システム及び裁判官ステータスに関する法律に署名。
- ・7日、ポロシェンコ大統領は、ロシア・ジョージア戦争10周年に際してコメントを発表。
- ・7日、ポロシェンコ大統領は、国家安全保障・国防会議に対しロシアによる選挙介入対策に関する会議を招集するよう指示。
- ・8日、ポロシェンコ大統領は、ポンペオ米 국무長官と電話会談を実施。
- ・14日、ポロシェンコ大統領は、エルキン・イスラエル環境保護相と会談。
- ・16日及び20日、ポロシェンコ大統領は、メルケル独首相と電話会談を実施。
- ・23日、ポロシェンコ大統領は、ドニプロ市を訪問し、「国旗の日」記念式典に出席。
- ・24日、ポロシェンコ大統領は、独立27周年記念軍事パレードに出席するとともに、ボルトン米国大統領補佐官と会談。
- ・24日、ポロシェンコ大統領は、ニーニスト・フィンランド大統領と電話会談を実施。
- ・26日、ポロシェンコ大統領は、ドネツク州アウジーウカ市を訪問し、ガス・パイプライン開通式に出席。
- ・28日、ポロシェンコ大統領は、ウクライナ大使会議にて演説し、ロシアとの友好協力パートナーシップ条約の効力を停止する用意がある旨発言。
- ・31日、ポロシェンコ大統領は、シムキウ大統領府副長官を解任し、後任にマルチェンコ財務次官を任命。
- ・31日、ポロシェンコ大統領は、マケイン米国上院議員の葬儀に参加するため米国を訪問。

▼閣僚会議・最高会議等動向

- ・8日、クリムキン外相は、バチカンを訪問し、フランシスコ・ローマ法王の一般謁見に参加。
- ・16日、クリムキン外相は、ガルガーシュUAE外務担当国務相と会談。
- ・16日、クリムキン外相は、エルキン・イスラエル環境保護相と会談。
- ・24日、フロイスマン首相は、ボルトン米国大統領補佐官と会談。

▼ドンバス情勢

- ・9日、ムジェンコ参謀長は、フーグSMM副団長と会談し、東部情勢について協議。
- ・14日、トランプ米国大統領はウクライナに対する250百万

- ドルの安全保障支援を含む2019年の国防予算案に署名。
- ・14日、クリムキン外相は、マース独外相とドンバスの国連ミッションの問題に関して電話協議を実施。
- ・14日、リトアニアは、ドンバスに対する約百万ユーロの支援を発表。
- ・15日、ノウアート米 국무省報道官は、ドンバスでSMMが新たに4体のロシアの電子戦システムを確認したことについて触れ、ロシアに対しミンスク諸合意の完全な履行を求めた。
- ・16日、ナイエフ統一部隊司令官は、統一部隊による作戦開始以後、約450名の非合法武装勢力参加者を拘束した旨発表。
- ・28日、砲撃の影響で23日以降閉鎖されていたマヨルスクのチェック・ポイントが再開。
- ・31日、地雷爆発の影響で2日間にわたり閉鎖されていたがノヴォトロイツケのチェック・ポイントが再開。
- ・31日、ドネツク市内のレストランで爆発があり、ザハルチェンコ「ドネツク人民共和国首長」が殺害された。

▼ノルマンディ・フォーマット及び三者コンタクト・グループ動向

- ・21～22日、ミンスクで三者コンタクト・グループ会合が開催され、新学期の開始に伴う8月29日からの停戦を確認した。ウクライナ側は、ロシア人受刑者2名に恩赦を与える用意がある旨表明。

▼クリミア情勢(被拘束者問題含む)

- ・3日、2015年2月にクリミアで逮捕され、ロシアによって拘束されていたユーロマイダン活動家のオレクサンドル・コステンコが解放された。
- ・6日、ウクライナ外務省は、プーチン露大統領のクリミア訪問に抗議する声明を発表。
- ・9日、デニソヴァ最高会議人権代表は、モスカリコヴァ露人権代表に対し、ロシアに拘束されているウクライナ人映画監督オレーフ・センツォーフをモスクワに移送して治療させるよう要請。
- ・9日、チュバロフ・メジュリス議長(最高会議議員)は、クリミアの地位に関する憲法改正案の検討を呼びかけ。
- ・13日、フランスの映画監督や文化大臣がセンツォーフ解放を求める公開書簡を発表。
- ・14日、ヘラシチェンコ最高会議第一副議長は露側に対し、ロシアに拘束されるウクライナ人と引換えに36名のロシア人受刑者を引き渡す用意がある旨改めて表明。
- ・15日、米 국무省は、ロシアに対し、アゾフ海の国際航行の妨害をやめるように呼びかけ。
- ・16日、国連の専門家は、ロシアに対し、センツォーフをた

だちに無条件で解放するように呼びかけ。

・22日、ノウアート米国務省報道官は、ハンガーストライキ100日目を迎えたセンツォーフの即時解放をロシアに呼びかけ。

▼その他

・1日、警察は、元反テロ作戦参加者・活動家のヴィターリー・オレシユコ殺害(7月31日)の容疑者を拘束した旨発表。

・3日、警察は、ヘルソン市役所顧問・活動家のカテリーナ・ハンジューク襲撃(7月31日)の容疑者を拘束した旨発表。

・1日、ウクライナ外務省は、駐ウクライナ・ハンガリー臨時代理大使に対し、ウクライナのEU・NATO加盟を否定するオルバーン首相の発言に抗議するとともに、ザカルパチア地方開発担当相の設置につき説明を求めた。

・31日、バルトロメオ・コンスタンティノーブル総主教は、イスタンブールを訪問したキリル・ロシア正教会総主教に対し、ウクライナ独立正教会に自治権を付与する旨伝えた。

2. 経済

▼主な経済動向・金融政策等

・8月の対ドル中央銀行公式為替レートは、26.87-28.28UAH/USD。

・8月1日時点での外貨準備高は177.5億ドルとなり、前月比1.3%減。

▼マクロ経済指標（国家統計局発表）

・7月の消費者物価指数は、前月比0.7%減。年率換算では8.9%増だった。

・7月の実質賃金は、前月比1.0%増加、名目賃金は9,170フリヴニャで前月比0.3%増加。

・7月の鉱工業生産高は、前年同月比2.9%増。

・7月の農業生産指数は、前年同月比11.2%減。

・7月の建設業生産指数は、前年同月比10.6%増。

・1~6月の貿易赤字額は約26.6億ドル。累計輸出額は約233億ドルとなり前年同期比12.7%増加、累計輸入額は259億ドルとなり、前年比14.5%増加。

▼IMF

・13日、国際通貨基金(IMF)は9月6~19日に評価ミッションをキエフに派遣すると発表した。

▼対ウクライナ支援

・1日、スウェーデン政府は、改革推進のためのNGO連合体「改革蘇生パッケージ(RPR)」に38万米ドルの12ヶ月間にわたる追加支援を開始した。

・2日、ドイツ政府は、2018~2019年の国際赤十字委員会(ICRC)のウクライナでの人道支援活動に700万ユーロ提供すると発表した。

・16日、リトアニア政府は、2019年のウクライナ支援予算のうち、約100万ユーロを戦争で疲弊したドンバス地方に投じる旨決定したと報じられた。

・22日、米国政府はウクライナに対し、7,800万ドル近くの

追加的支援を行うと報じられた。この資金は、ウクライナの中規模投資活動、民間企業支援、エネルギー効率の向上、農業生産性の向上に充てられる。

▼貿易・投資

・6日、ノルウェーのNBT社はウクライナと共同で、ヘルソン州に風力発電所を建設すると報じられた。最大出力は250MW。同プロジェクトの第1フェーズへのノルウェー側の投資額は3億7,000万ユーロ超。

・14日、米海外民間投資会社(OPIC)は、キエフ市における病院建設に投資する計画だと報じられた。投資額やパートナー企業等は明らかになっていない。

・17日、アラブ首長国連邦(UAE)は、エネルギー効率及び再生可能エネルギー分野におけるウクライナとの共同投資事業を実施する旨の覚書に署名した。

・27日、国家統計局は、2018年上半年期におけるウクライナへの外国直接投資額は13億ドルに上ったと公表した。2017年通年での同国への外国直接投資額は18億ドルだった。

▼経済改革

・22日、政府は、「2018~2020年における財政赤字の管理に係る中期戦略」を承認した。マルカロヴァ財務相代行によれば、2017年以降、ウクライナの財政赤字が国内総生産(GDP)に占める割合は低下し、安全基準値である60%に近付きつつある。今般採択された戦略では、財務省の課題として、財政赤字のGDPに占める割合を、2018年に60%、2019年に52%、2020年に49%とする旨設定された。同戦略は、財政赤字がGDPに占める割合だけではなく、赤字構造の改善や危険因子の低減についても言及している。

▼エネルギー

・8日、露ガスプロム社のパートナー企業である独ユニパー社は、バルト海底を通るノルド・ストリーム2ガス・パイプラインの建設を7月後半に開始したと発表した。

・露ガスプロム社は2018年上半年期、ウクライナの被占領地域であるドネツク州及びルハンスク州に前年同期比10.4%増となる15億立米のガスを供給した。

・国営ナフトガス社は8月中旬、ナフトガス・テプロ社及びナフトガス・トレーディング社の2子会社を登記した。9月4日に国家エネルギー公益事業規制委員会(NEURC)が、これら企業にライセンス付与について検討する予定。

・エネルギー省は、8月21日時点の国内の火力発電所に貯蔵されている石炭の備蓄量が前年同期比13.6%減の175万トンとなった旨公表した。同時点での天然ガス備蓄量は前年同期比2.1%減の139億立米、ボイラー油の備蓄量は同48%減の3万8,400トンだった。

3. 防衛

▼米海軍駆逐艦が黒海をパトロール

・12日、米海軍第6艦隊所属のアーレイバーク級駆逐艦(DG64)「カーニー」がボスポラス海峡を通過し、黒海に入域。

同艦は通常訓練の枠内において約2週間、黒海でのパトロールを実施。これに並行して米海軍輸送コマンド所属の高速輸送艦「カーソン・シティ」が黒海で活動し、ジョージアで行われた多国間演習「ノーブル・パートナー2018」への輸送任務等を実施した。

▼独立記念日パレードが挙行

・24日、キエフ中心部においてウクライナ独立27周年を記念したパレードが挙行された。パレードには約4,500名の兵士及び車両部隊、航空機部隊が参加し、米国、英国及びカナダ等11カ国から親善部隊が参加した。本パレードでは、NATO標準の120mm弾用に砲身を換装したT-84-120型戦車や、米国から供与された携行型対戦車ミサイル「ジャベリン」が披露された他、初めて女性部隊の行進が行われた。

(了)